

風土記の丘の花だより²⁷⁹

今、そしてこれから見られる植物(2025年6月28日)

24日の未明の大雨には驚きました。降るか照るか、本当にはっきりした梅雨ですね。今まで「梅雨の雨はしとしと降るものだ」と思い込んでいましたが、時代と共に雨の降り方も変わってきました。ところで、今年はヤマモモの落果がすごいですね。靴の裏や側面がヤマモモ色に染まってしまう程です。赤黒く熟した実を採って食べてみました。なつかしい味がしました。



旧谷村家の西斜面(坂道沿い)でシャシャンボの花が咲いています。白くて小さな花を下向きに付けます。ネジキの花を小さくしたような花です。どちらもツツジ科ですから、似ていて当たり前ですけどね。それにしても、ヘンテコな名前ですね。漢字で「小小坊」と書くというのですが、これまたどうでしょうね。秋の終わり、赤黒い実が熟し、食べられますが、酸っぱくて、私はおいしいと思ったことはありません。探せば案外よく見つかる木です。



アガパンサスの花が咲き始めました。水色の涼しげな花です。旧谷山家の庭にはたくさん植えられているのですが、年々、花数が減ってきています。この写真は小早川家の上で撮りました。後ろにかやぶき屋根が写っていますね。ヒガンバナ科の植物ですが、私の手元にある古い図鑑ではユリ科になっています。日本には明治の中頃に渡来した園芸植物です。ギリシア語で愛の意味のアガペと花の意味のアンサスがくっついて、アガペアンサス→アガパンサスとなりました。愛の花なんですね。となると、ちょっと見方が変わりますね。



旧谷山家住宅の庭の右奥の竹やぶにコクランの花が咲いています。黒い蘭でコクランです。黒と言っても、花の色で黒はありませんから、名前は黒ですが、とても濃い紫色なのです。前に溝があるので気を付けてご覧になってください。よく探すとかなりの株数があります。数少ない植物ですが、園路沿いにも何カ所か群生地があります。でも、少し見上げる場所に生えているので、余り気づかれていません。それで、近くで花を観察するにはここが一番お勧めです。



工事の関係で万葉植物園に移植していただいたインドハマユウがピンク色の花を咲かせています。園芸種としてはクリナムの名で呼ばれています。ただ、クリナム(Crinum)はこれや、下のハマオモト(はまゆう)などを含む植物の属名



ですから、一言でクリナムと言っても色々あります。その中で、インド原産で左の写真のような花をインドハマユウといいます。 松下